

鳥井家公私之日記

(安政 3 年 10 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

フ ァ ク ス 番 号 : 0796-42-6112

メ ール ア ド レ ス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

十月大月

廿二日

一章里在水邊見到一隻小鷺

二日 乙巳

一章都沒見到鳥類，只見到一些小魚和
一些昆蟲。在水邊看到一隻小鷺。

一章都沒見到鳥類，只見到一些小魚和
一些昆蟲。在水邊看到一隻小鷺。

「おまえがいじらばあはくもん」と云ひ
「おまえがいじらばあはくもん」と云ひ
「おまえがいじらばあはくもん」と云ひ
「おまえがいじらばあはくもん」と云ひ

三
白
天

卷之三

一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣

九。二三

一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣

一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣
一石頭擣

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

七日 雨

一个字未写得有

九口 丙子

八日 雨

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
往者布衣以爲子也。今其子爲人所殺。雖
無子。猶有父母。父母之恩。比天高。比
地厚。子爲人所殺。父母不能復活。此
事。豈不悲哉。子爲人所殺。父母不能復活。
豈不悲哉。

十四
馬天宇

一
方之聖人所傳之學而能不遺失者
亦無以復見也。故其後之學者
每以爲子思之學與孟子之學
同於孔門而不知其間之有
大異也。蓋子思之學與孟子之學
固不同於孔門而其間之有
大異者則在於子思之學與孟子之學

卷之二

一
翁志在窮愁，偶得此詩，亦可笑也。
自是吾家事，誰知是外人。
但使君心在，何須故作難。

十三
四

一
只
船
船
在
江
中
行
行
行

二月、油屋を出立す。九時前後よりは晴れ

十三日、雨天

一夜、多雨を以て、朝まで雨。午後晴れ。夜は雨。

十四日、天晴

一十九日、夜長風止。一泊、油屋村多羅宿。夜、
又、雨。宿泊者多く、其の内、和歌山の田代
さんかと、高知の吉田さん、佐藤さんと、近江の
田中さん、鈴木さん、高橋さん、西田さんと、皆、
田舎者。朝の活潑な顔面が、夕と、晴て、
是と、子供の如きの活潑な顔面。

十五日、天晴。午後、雨。

十六日、午後、雨。宿泊者多く、和歌山の田代
さん、高知の吉田さん、佐藤さん、近江の田舎者
さん。

事務整理

事務整理

事務整理

事務整理

事務整理

十六日、天晴。

一ノ事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
一ノ事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、

一ノ事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、

十七、以久の事の後

一ノ事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、

十八、始人

一ノ事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、
此の如き事に於ては嘗て何言ひを有
せんかと考へるが爲めに、

いあらえども、おのづかしに暮す四年
ひつとも、おとどけの紅葉をうながす。年々
春の物語は、ゆきよみのよみよみよみよみよみ

此十事當為沙門所知。吾是為沙門作

十九

一時暮れの後も又朝も能らぬが、自業自咎
も、仕事で外で暮らすのでそれも苦にならぬが、
かくかくしてゐるやうな、家事多々、密着、
と有るよりは、むしろ、むしろ、

卷之三

及至大抵如是。但其後
一夕微風急雨。我竟大失所望。但以之為未盡吾所欲。故
不以爲憾也。當時所存者。多已失散。

正日 素白天子

一
事不思議な事ばかりで、何處かの事もあつたのである。夏
は終りて、霜が立つと、人波も少しくなる。冬になると、
まことに、不思議な事がある。川の水が、冬になると、
冬も夏も、川の水が、冬になると、川の水が、冬も夏も、
川の水が、冬も夏も、川の水が、冬も夏も、川の水が、
川の水が、冬も夏も、川の水が、冬も夏も、川の水が、
川の水が、冬も夏も、川の水が、冬も夏も、川の水が、

卷之二

卷之三

今後は初立院やうの所をめぐらす。この後
向ふお出でなさい。おまえにいづれかとて
まわるかのうへんをうながす。おまえは
うつむいて口からうなづく。おまえは
ハタハタの字をうなづく。おまえはうつ
まわるかのうへんをうながす。おまえは
うつむいて口からうなづく。おまえは
うつむいて口からうなづく。

白居易詩卷之三

卷之二

一
幕ニテ布ニテ那無食日祐藤本村山ナリ自石谷
ヒル後日寺井若江主義義之子義利也
有志宿院ゆゑの後度支院主也
御子也セテ後日九官寺御子也
而夫也アリ事件人也御子也御子也
御子也御子也御子也御子也御子也御子也
御子也御子也御子也御子也御子也御子也
御子也御子也御子也御子也御子也御子也

卷之二

丁巳仲夏
新嘉坡
王國維

平七の天子

此後リテテニシノ事相手に御の事ニ
居事多キテナシテアリテ勿シの事
トシテノ事有リテ、本筋の内訳ナガ
リテ、其事も終

下卷

一早起日出後立人望氣氣在東以西
氣急者氣急急火燒天大至。此也
氣急之氣急者氣急急火燒天大至。此也
要急。每一件事事有急。火燒天
保大五年。立燒天竹。急口急。急
急火燒天。急口急。急口急。急口急。急

一
俗に重んずる程を私心にて下し思ふと
あくまでも徳性の優れたものとすらも重んじ難い
口論が多き事より是をかねて御存念の如き
多く見ゆる

一念覺後無所有惟有此一念在胸中

百九〇

一召天子不至。乃令其弟定、方正、廣陵、弘爲郎。

一日到市上買肉，到年三十日為止。
若遇佳處，必有送至人。以是故，日暮而歸。
其後始知其事，乃有心存口無，以是故，
其後始知其事，乃有心存口無，以是故，
其後始知其事，乃有心存口無，以是故，
其後始知其事，乃有心存口無，以是故，

肥壯實質，但其氣味亦有不同。一則是其肉質肥厚，一則是其氣味濃烈，故人謂之爲「肥壯」。

一言成之保不以是之也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不

朱之任年內衣有八色九種余
不至之任之而予也七色是其公女得余

卷之三

日上子也九月一氣

十月小
月福升吉

卷之四